



Can Get Signal® Immunoreaction Enhancer Solution Q&A

TOYOBOテクニカルライン (TEL 06-6348-3888) へのお問い合わせの多い商品群ごとに、それらをまとめたQ&Aのコーナーです。今回は、ご好評いただいております、Can Get Signal®について、多くいただくお問い合わせ内容をまとめてお届けいたします。これらをご参考に、より一層効果的にご利用いただければ幸いです。

〈商品の特長について〉

- Q 1** **どんな免疫アッセイに使用できますか？**
A 1 ELISA、ドットブロッキング、ウェスタンブロッキング等です。また、使用条件を詳細に検討することで、他の免疫アッセイ系に使用できる場合もあります。
※免疫組織染色には、本誌P.7掲載のCan Get Signal® immunostainのご使用をお勧めします。
- Q 2** **どのくらいシグナルが上がるのですか？**
A 2 従来法に比べ数倍から数十倍の高いシグナルを得ることができます。反応性が低い抗体で顕著な効果を示す傾向があることを確認しております。
- Q 3** **なぜシグナルが上がるのですか？**
A 3 抗原と抗体との反応を促進する効果があるためです。

〈使用方法について〉

- Q 4** **どのように使用するのですか？**
A 4 通常、抗体の希釈に用いるTBS (TBS-T)、PBS (PBS-T)、希釈ブロッキング液などの代わりに、本試薬で抗体を使用濃度に希釈し、そのまま各種アッセイに用いてください。本試薬自体は希釈せずにご使用ください。
- Q 5** **Solution 1とSolution 2があるが、どのように使い分けるのですか？**
A 5 Solution 1が1次抗体希釈用、Solution 2が2次抗体希釈用です。
- Q 6** **抗体を一種類しか用いないアッセイ系（1次抗体に標識が付加されている場合など）ではSolution 1とSolution 2のどちらを使えばよいのですか？**
A 6 Solution 2をお勧めします。ただし、抗体の種類によっては、Solution 1を用いた方が、より優れた効果を示す場合があります。また、サンドイッチELISA法における固相化抗体と抗原との反応には、抗原の希釈液としてSolution 1を用いることができます。
- Q 7** **どの標識酵素を使えば良いのですか？**
A 7 ペルオキシダーゼやアルカリフォスファターゼなどの標識酵素の活性に影響を与えない成分から構成されていますので、これらの標識抗体を用いたアッセイ系にも使用することができます。
- Q 8** **検出系はどのようなものが良いのですか？**
A 8 蛍光検出、発色検出、発光検出のいずれにも使用可能です。また、他の増感システムと併用することもできます。
- Q 9** **検出にアマシャムバイオサイエンス社のECLシステムを使用していますが、ECL PlusやECL Advanceは使用可能ですか？**
A 9 問題なくご使用できます。また、ECL Advanceご使用の際は、付属の専用ブロッキング剤を本液に添加して使用することを

お勧めします。

- Q 10** **カゼイン、BSA等のブロッキング剤を加えて使用しても問題ありませんか？**
A 10 可能ですが、本試薬には、あらかじめブロッキング作用を持つ成分が混合されているため、追添加により濃度過多になる場合がありますので、ご注意ください。
- Q 11** **アザイドを加えても問題ありませんか？**
A 11 特に問題はございません。
- Q 12** **ブロッキング反応に使用可能ですか？**
A 12 ブロッキング能を低下させる可能性があるため、ご使用できません。
- Q 13** **ELISA法における抗原または抗体の固相化反応に使用可能ですか？**
A 13 固相化能を低下させる可能性があるため、ご使用できません。
- Q 14** **ブロッキング溶液のブロッキング剤としてはどのようなものが良いですか？**
A 14 スキムミルク、カゼイン、BSA、ゼラチン、正常血清等、いずれのブロッキング剤もご使用できます（リン酸化タンパク質の特異的検出やアビジン-ビオチン系を用いた検出系には、スキムミルクまたはカゼインの使用は避けてください）。
※ブロッキング剤の検討については、本誌P. 15～16をご参照ください。
- Q 15** **うまくいかないのですが、どうすれば良いですか？**
A 15 場合にもよりますが、抗体の濃度が高すぎて正常に反応できないことがあります。1次抗体の最適な希釈倍率は、抗体種、抗原の濃度、検出系の感度等に大きく依存しますので、抗体の供給元の推奨条件を参考にしてください。もし、最適な希釈倍率が分からない場合はドットブロッキングなどの予備検討を行うことにより、希釈倍率を決定することができます。

〈保存方法について〉

- Q 16** **Can Get Signal®で希釈した抗体は、4℃で保存可能ですか？**
A 16 従来ご使用されていたTBS (TBS-T)、PBS (PBS-T)、希釈ブロッキング液などで保存可能な抗体であれば同様に保存できます。
- Q 17** **希釈液は使い回すことはできますか？**
A 17 可能です。ただし、抗体の結合量が多くなるため、同じ希釈倍率でも今までより使い回せる回数が減る場合が予想されます。
- Q 18** **ウェスタンブロッキング後にストリッピングしたメンブレンを再利用することは可能ですか？**
A 18 再利用することは可能です。